

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 6 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやか グループホーム 七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並 6 3 0 - 1 (電話) 0 5 7 4 - 4 7 - 1 0 7 1		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年3月19日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 6 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,360~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 6 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名
要介護 3	2 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86.3 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木澤記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より少し奥まったところに位置し、落ち着いた景観のホームである。利用者の全員が女性であり、穏やかな表情での暮らしぶりが見られた。前回の評価では、利用者の一人ひとりに笑顔と活気が見られないとのことであったが、それらは現在は感じられない。管理者と職員が、利用者の残された力をできるだけ引き出しながら熱意をもって支えた結果と見る事ができた。法人組織の持つサービス向上委員会や段階に応じた法人内研修体制が、ホーム運営の向上に反映されている。昔馴染みの畑仕事や茶摘など、外に出る機会を多くし、ホームに閉じこもらない暮らしを提供しながら、さらには、遠距離バス旅行を企画したり、併設デイサービスとの交流やイベントを共有するなど、活動的な取り組みが見られた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回、足元の冷えが改善点であったが、天窗の故障を修繕し、対流用のファンを活用するなど、改善されている。利用者の表情も穏かで、明るい雰囲気が見られ、職員の改善に向けた努力と成果が見られた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価の中では、馴染みの人や地域の人々が訪れる機会が少ないことを改善課題として捉えている。今後は、自治会との連携や近くの中学校との交流を充実させるように取り組んでいく方針である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月毎に開催され、グループホームの役割や認知症への理解が少しずつ広まっており、利用者との交流、ホーム運営への提言、地域への情報の発信等、参加者が認知症の知識全般を学びあう会議ともなっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族からは、ホームの運営や職員の明るく接しやすい態度など高い評価と好感を得ている。家族の意見を取り入れるための機会の設定、対話の工夫、信頼関係に向けた取り組みをさらに進めていく方針である。 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 近隣の各家庭には、グループホームの役割や認知症の特徴など説明し、協力が得られている。日常の散歩での挨拶、野菜の差し入れ、広報紙の配布、利用者を見かけた時は通報するなどの実績があり、連携ができています。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしい暮らしを支えるために、自立と自己選択を尊重する理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関と事務所内の目立つ位置に掲示し、日々確認しながら実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々との日常の挨拶をはじめ、広報紙を配布したり、外で利用者を見かけた時の通報にも協力を得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成過程では、職員全員の意見を聴いてホーム長が取りまとめ、前回の外部評価の結果とあわせ、改善に向けた取り組みが見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月ごとに開催され、メンバーと利用者との交流や事業報告、評価の検討、情報交換等が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の動態の報告を小まめに行っている。また、役場職員の体験研修の場としてホームを提供している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らし振りや健康状態を、居室担当者がホーム便りと共に家族に送付している。金銭については、家族が訪問時、出納を見てもらい了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情等の受け入れ体制は整っているが、家族のホームに対する信頼が高く、意見・苦情等は見られない。	○	年間行事を通じて、家族が集まる機会が多いので、意見を待つのではなく、意識的に意見・要望などを聴きだす取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・職員の異動は、最小限に留まっており、馴染みの関係が維持されている。代わる場合は、馴染みの深い職員が新任と一緒にになり、利用者の不安が少しでもやわらぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、段階に応じた計画的な職員研修体制があり、学習の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には、7ヶ所のグループホームがあり、定期的に情報交換、勉強会、職員の相互交流が行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族及び関係者から本人の情報を得た上で、1週間程度の体験入居を受け入れている。その際の支援方法や宿泊料金と食事代を定めている。家族や利用者が納得した上で利用決定が出来るよう配慮されている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と洗濯、掃除、調理を一緒にしながら喜怒哀楽を共にしている。また、昔の話から利用者の経験と知恵を学ぶように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、本人の希望や意向の把握に努めている。畑仕事をしたい人、家の様子が気になる人、孫の世話をしたい人もいるので、家族と相談しながら対応に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者の意見を取り入れて、介護計画を作成し、家族から署名をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、入居1年未満は3ヶ月毎に、安定期の人は6ヵ月毎に見直し、状態の変化によっては、随時、見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各種医療機関への受診のための移送を行い、入院時には、早期退院に向けた支援を行っている。また、地域には、介護・福祉に関する出前講座も提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から本人の状況を把握しているかかりつけ医での受診を支援している。かかりつけ医からは、定期的な往診や緊急時の往診にも協力が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた医療対応は、医師と家族との緊密な連携の下で対応している。終末期は、職員の力量や体制づくりを確実なものにした上で対応する姿勢にあり、取り組みには慎重である。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄、入浴などの場面では、羞恥心やプライドに配慮した言葉掛けとケアに努めている。プライバシーや個人情報の保護等の教育は、新人採用時に徹底して行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、絵手紙作り、モップ掛け掃除など、本人の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や片付けはしている。職員が弁当を持って来ていたり、食事中に作業していたりする場面が見られ、利用者と一緒に食事を摂るようにはなっていない。	○	グループホームの特性を踏まえ利用者と一緒に食事を楽しむ環境づくりを前向きに検討されることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる体制があり、多くの人は満足感を示している。強く拒否し、ほとんど入浴していない利用者があるが、代替の清拭で対応している。	○	入浴対応のケース事例・成功事例を参考に拒否の背景を探りながら、入浴支援の実現に期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑で野菜や花を作ったり、茶畑での茶摘み、茶の精製も行い、一服を楽しんでいる。また、年に数回、マイクロバスでの日帰り旅行を企画して、楽しみの機会を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一度は外出の機会を設けている。散歩、買い物、ドライブ、図書館、寺参り、知人のところへ出かけたり、多様な外出の機会を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていないが、国道が近いことから、チャイムで出入りは分るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導を受けて、避難訓練を行っている。地域との災害協力体制作りには、運営推進会議の議題として取り上げるように計画している。	○	地域との協力体制の実現に期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表があり、栄養バランスに努めている。摂取量については、管理表に記録され、個々の状態が把握されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度、湿度は適切に管理され、不快な光・音・臭いなどもなく快適である。天井から室温が逃げないように、換気窓が修繕されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた小物、家族の写真などが飾られている。さらに、本人にとって思い出深い物があれば、提供してもらえるように、家族へ要望している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。